

2021年7月1日発行

鵬 鷲

HOSAI

「鵬鷲」鵬は翼の幅3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬（おとり）が飛ぶ（＝はるかなかなたの）空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一步一步目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬鷲」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願ひ致しました。



八代経済開発同友会
(通巻第134号)

<http://www.goroyoka-yatsushiro.com>
E-mail:jimukyoku@goroyoka-yatsushiro.com



八代経済開発同友会 令和3年度 スローガン 尖（トガル）@2021 個々の力を結集し大きな力に変えていく

八代経済開発同友会 第58代 代表幹事
吉武 卓 哉

わが国では、想定外の気候変動による自然災害の拡大や少子高齢化・人口減少社会の到来をはじめとし様々な課題が蓄積しております。そのような中、昨年は世界的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、世界の国々で大きな影響を受けました。国内においても観光業・飲食業をはじめイベント業など数多くの産業が大きな打撃を受け、国・県・市においては、コロナ対策の財政支出も莫大な金額となっております。また、昨年7月に開催予定でしたスポーツの祭典東京オリンピック・パラリンピックが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により本年7月に延期開催となりました。このような緊急事態ではありますが、八代では2020年11月、八代港国際クルーズ拠点港整備事業における「くまモンポート八代」のプレオープン。本年度に八代市役所新庁舎、及びお祭りでんでん館の完成。更に本会の継続事業の一つでもある「八代・天草シーライン」建設に向け、本年2月2日に蒲島知事を会長とする「八代・天草シーライン建設促進協議会」が設立され、日本最長の海上道路「八代・天草シーライン」の早期実現に向けた大型プロジェクトが大きな一歩を踏み出しました。

この新型コロナウイルスの影響で、働き方や生活スタイルも大きく変化し、デジタル技術の活用をはじめ急速なテクノロジーの進歩、市場グローバル化の拡大、少子高齢化（人口減少問題）に向き合うため経済団体としての運動展開が、必要不可欠と考えています。本会は、「奉仕の志を持つ者が、ともに集い学び合い、幸福感のある企業と活力ある地域づくりに貢献する」の理念の下で様々な事業を展開する中で、今年で58年目を迎える本会は、副代表幹事4名のグループで5委員会及び専務理事グループでの1委員会を含め96名のメンバーでスタートいたします。各委員会活動の中で変化に対応しながら様々な事業の企画・立案・実行があるかと思いますが、挑戦なくしては前に進むこともできず、その過程には大きな壁にぶつかり結果が伴わないこともあるかと思

ます。しかしながら挑戦を続けるその小さな積み重ねが、未来を切り開く一歩となり、地域経済の発展につながると確信しております。

個々の力は小さいかもしれませんが、本会理念の下、各委員長をはじめ、メンバー同士が鋭い感性（個性）と、各委員会開催時に浮かび上がるアイデアを大事にしてその時々場面・場面で出た意見を文字にし、数値に置き換え行動することで、夢の実現に向けた八代経済開発同友会独自の活動に繋がると考えています。更にメンバー同士の企業や地域の企業が、共存共栄していく事で会員企業の成長と地域発展に繋げることが、新たな時代にふさわしい八代経済開発同友会としての大きな役割になると確信しています。

小さい個々の力を結集し、大きな力に変えていく！
そして、変化に対応し、進化を遂げ続けていく！
その強い私自身の決意を本年度も、尖（トガル）の1文字に込めさせていただきました。

更に、私共八代経済開発同友会は2年後の60周年に向け会員拡大においても八代圏域に事業所がある新入会員拡大に力を注ぎ110名以上の会員数を目指してまいります。

最後に、2020年7月3日、熊本県・鹿児島県を中心とした記録的な大雨により球磨川流域での氾濫・浸水、大規模な土砂崩れ等、九州全土において被害が及び、本市坂本町においても甚大な被害が及び、被災地域のインフラ整備等含め、まだまだ時間と労力がかかる事が予想されます。そして、新型コロナウイルス感染においても、先の見通せない状況が続くと想定されませんが、一日も早い事態の収束と、地域の商圈に活力が戻ることを祈ってやみません。行政の皆様と経済4団体を含む、関係諸団体の皆様と共に八代地域の未来図についてのコンセンサスがとれるよう本会の運動展開に繋げてまいります。本年度も、皆様方のご指導ご支援をお願い申し上げます。

委員会基本方針

港みらい委員会

委員長 守田 邦 宏



2020年10月31日より八代港国際クルーズ拠点港整備事業における「くまモンポート八代」がプレオープンしましたが、新型コロナウイルスの蔓延によりクルーズ客船の寄港は行われていない現状にあります。しかしながら今後の新型コロナウイルスの収束と共に改めて八代港への寄港も想定されます。それに伴い八代におけるインバウンドがもたらす経済効果を高める為の取組は必須と考えております。

また一方、多くの魅力やポテンシャルを秘めている「くまモンポート八代」は、単に旅客ターミナル港ではなく八代の新しい観光拠点としていくため八代市内外の方へ「くまモンポート八代」の魅力発信をし、ノンシップデーの活性化、市内からの交通アクセス問題などに対して取り組んでまいります。

また東アジアに対する地理的優位性の高い八代港には、熊本県の推進する物流拠点構想が策定されており、当委員会としても行政や他団体と連携を図り構想実現に取り組めます。

今後の八代港の活用や発展は、単に八代に寄与するだけでなく県南、ひいては熊本県全体に寄与することと捉え、委員会メンバーの尖ったアイデアや意見を基に、本年度一年間邁進させていただきます。

八代・天草シーライン建設促進委員会

委員長 飛石 幸 弥



前年度は、新型コロナウイルス感染症や熊本豪雨災害の影響もあり、主だった活動は控えておりましたが、「架橋」から「シーライン」への活動名称変更に伴い、周知を目的とした配布用チラシと掲示用ポスターの刷新、萩原橋手前にある啓発看板のリニューアル、そしてシーライン単独のホームページ新規立上げに取り組んで参りました。そのような中、令和3年2月に蒲島知事の主導の下で、県が地元とともに国への要望等の推進活動に取り組むことを目的とした「八代・天草シーライン建設促進協議会」が発足し、実現に向けて大きな前進がありました。

今年度は、シーライン構想の置かれている状況がスピードを増して変わっていくと予想される中で、

八代・天草双方の盛り上がりに向け、もっと多くの方々への周知、特に将来の八代を担っていく若い世代の方へも浸透するよう署名活動の継続と、講演会開催やホームページでの情報発信などPR活動を行い、地元の熱意を国・県に届けるためにも精力的に活動を行って参ります。また、シーライン建設促進活動及び地域活性化に繋がられるよう八代の夕焼け発信事業にも力を入れ、八代の魅力発掘と発信に取り組めます。ここ数年の機運上昇を更に高めるために委員会メンバーの個々の尖ったアイデアを結集し、県協議会、民間協力期成会、行政及び他団体との連携を図りながら、日本最長の海上道路「八代・天草シーライン」早期実現に向けて活動して参りますので、皆様のご協力の程よろしくお願い致します。

やつしろのタカラ探し委員会

委員長 江崎 光 幸



昨年コロナ禍で新しい生活様式となり、地域の祭りやイベントなども中止となる1年でした。私たち八代経済開発同友会はそのような中でも出来る方法を検討し、歩みを止めずに進み続けなければならないと思います。

まずは本年も、継続事業である妙見宮大祭の「祭り人」にスポットを当てた「どや顔フォトコンテスト」の運営と、街中が無数の提灯の光に包まれるイメージを目指し取り組んでいる「献灯運動」を展開します。どや顔フォトコンテストでは40の出し物全てに誇りと想いを抱いている町衆の一瞬を、高校生が中心となって撮影し易いような支援を検討します。次に一昨年11月より、妙見宮の鳥居を飾っている献灯提灯の新たな活用方法を見出し、妙見宮大祭の発展の一助となるよう鋭い感性とアイデアある企画運営をしていきます。

また「やつしろのタカラ」（八代の魅力）の一つである日本遺産「八代を創造（たがや）した石工たちの軌跡～石工の郷に息づく石造りのレガシー～」を八代市内外へPRしていく方法を考え実行して行きます。

今年一年、祭りや観光PRなどに力を注ぎ、八代地域の発展の一助となるよう全力で行動してまいりますので、会員の皆様のお力添えをよろしくお願ひいたします。

会員交流・拡大委員会

委員長 下田 和利



3年連続で会員交流・拡大委員長を任命されました下田です。本年もこれまで同様宜しくお願い致します。さて、八代経済開発同友会は昨年12月をもちまして、目標会員の100名を達成することができました。これも皆様方の御協力の賜物と心より感謝致します。

本年度の会員交流・拡大委員会の目標は、交流部門では、親睦会や交流会などの企画運営をコロナ禍以前の状態にすることを目標に、大変厳しい状況下ではありますが、互いに知識を絞り、感染対策を怠ることなく積極的に進めていきたいと思っております。具体的には、6月の慶寿の会・12月の忘年会・ゴルフ大会・釣り大会などを企画します。

拡大の部門では、八代市はもちろんの事、旧八代郡の拡大に幅をひろげたいと思っております。更に女性会員が活動しやすい環境を整備し、女性会員の拡大につながりたいと思っております。

本年度は10名を目標に商工会や女性会員と情報交換を行いながら、拡大へと繋げたいと思っております。

今年も、コロナ禍で大変と思っておりますが、皆様の御協力の程、宜しくお願いいたします。

安心なまちやつしろプロジェクト推進委員会

委員長 一美 慎也



東京商工リサーチによれば、2020年（1-12月）の倒産は全国で7,773件、2年ぶりに前年を下回り、過去50年間で4番目の低水準となりました。そのうち「新型コロナウイルス関連倒産」は、792件だったそうです。

この数字を見る限りでは、事業者がおかれている深刻な状況はあまり見えてきませんが、これに含まれていない休廃業をしている事業者について調べてみると約50,000件あり、政府や自治体の政策（資金繰り支援、各種給付金・助成金・補助金等）により何とか倒産を免れている事業者が多数あるのが現状ではないでしょうか？

倒産や休廃業が増えるという事は、すなわち、取引先や勤務先が減ることになり、雇用など経済にも多大な影響が出ます。

本委員会は、このようなコロナ禍の状況を乗り越えるために「安心なまちやつしろプロジェクト」と「TUNAGU事業」を推進することにより、八代経

済開発同友会の理念である「幸福感のある企業と活力ある地域づくりに貢献する。」を目指します。

そして、経済4団体とも連携を図りながら活動の輪を広げ、八代市を「安心して仕事ができるまち」「安心して仕事を頼めるまち」「安心して消費できるまち」にして、より確かな経済活動の後押しができるよう邁進して参ります。

withコロナの今だからこそ「つながり」をこれまで以上に大切にしつつ、鋭い感性とアイデアを持つことに臨めば、必ず道は開けると確信しています。

1年間、尖って頑張りますので委員会会員はもちろん、全会員皆様のご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

情報発信委員会

委員長 中尾 衣井子

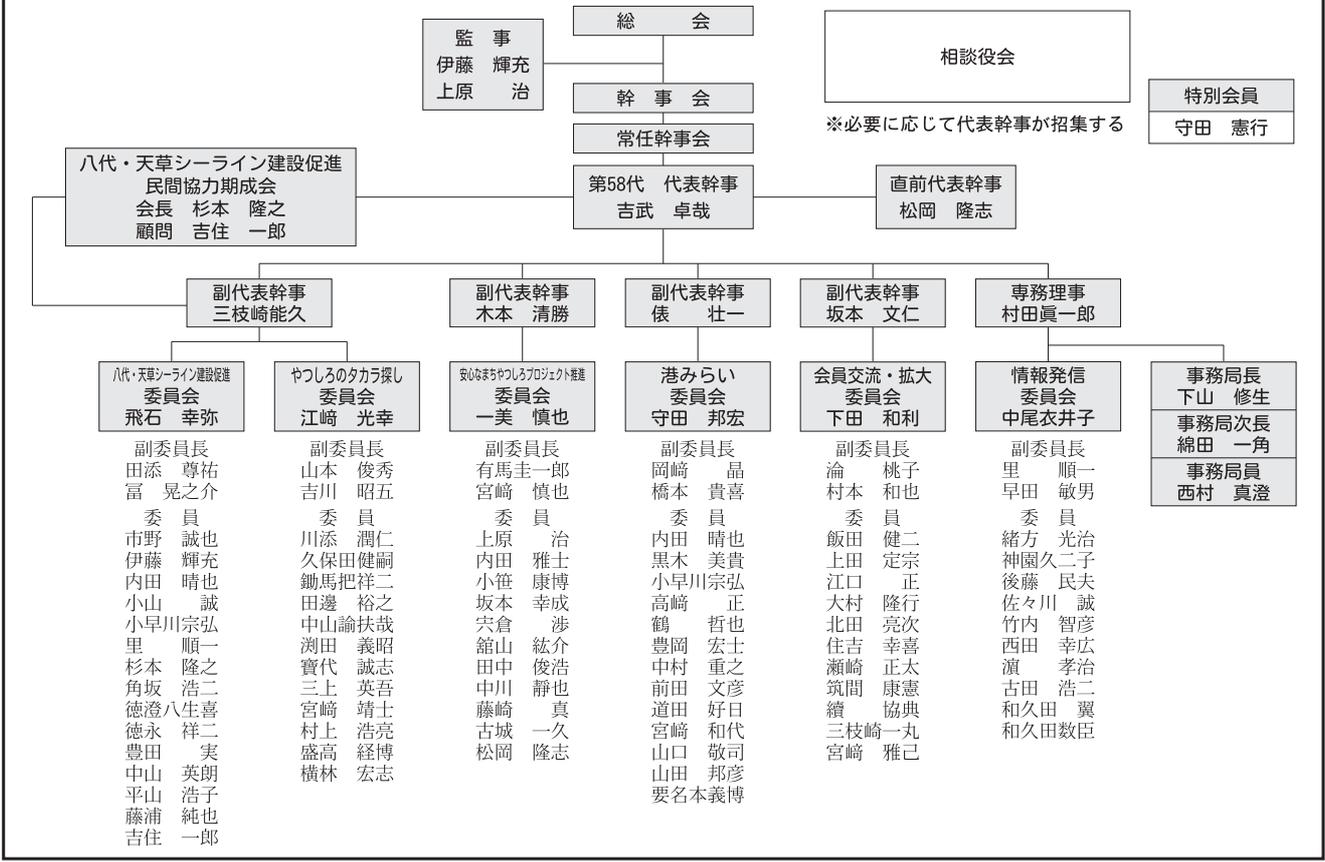


昨年度同様に、広報誌「鵬際」・ホームページ・SNSを活用し、会員の皆様へ必要かつ有益な情報を受信し発信する事、外部の方々へ同友会の活動等を通して存在意義を知って頂き、同友会に入会したいと思って頂けるような情報を発信していきます。特にホームページ・SNSは昨年度以上に活用し、コロナ禍において薄らいでいる「人と人との繋がり」を重視して参ります。

また、新たな活動としてデジタルトランスフォーメーション（DX）への取組を行います。2018年12月に経済産業省がDX推進ガイドラインを作成、本年度より八代商工会議所でもIT活用による企業としてのDX取組が行われます。これを踏まえ、ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変革させるという概念に基づき、企業がITを利用して事業業績や対象範囲を根底から変革できるよう、積極的にDXについての情報発信にも取り組んでいきます。八代経済開発同友会としては事務局等と連携し、会運営でのDXの取組を行って参ります。

全ての活動において、委員会メンバーだけでなく他委員会との連携並びに会員の皆様のご協力が不可欠と考えます。皆様方のご理解・ご協力の程、宜しくお願い致します。

令和3年度 八代経済開発同友会組織図

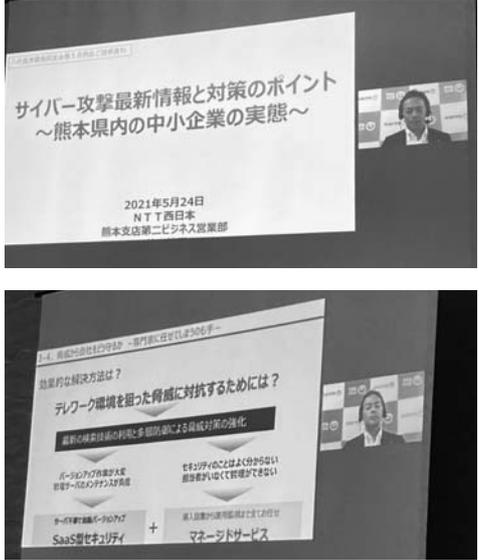


5月例会報告

5月24日月曜日にZOOMにて5月例会を開催致しました。当初は講師をお呼びして顔を合わせての例会開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、急遽ZOOM開催へ切り替えを致しました。

当日は西日本電信電話株式会社 熊本支店 第二ビジネス営業部長 前田慎吾様に「サイバー攻撃最新情報と対策のポイント ～熊本県内の中小企業の実態～」と題してご講演頂き、現状や対策方法などについて分かり易くお話しを頂きました。日々出来るウィルスの数に驚かされつつ、対策の現状を聞き、水際対策がいかに大事かを感じる事が出来ました。

急な変更にも関わらずご参加頂いた皆様、本当にありがとうございました。



安心♥八代

わたしたち、感染防止やっています!!

安心なまち やつしろプロジェクト

店舗 登録



安心なお店を
調べたい方はこちら

感染防止対策店登録数 1752

各事業所が八代独自の基準による新型コロナウイルス感染
防止対策に取り組んでいます!



事業者向け
登録されたい方はこちら